

看護師基礎教育と新人看護職員研修における到達目標（看護技術）の関連性について（イメージ）

＜ 到達度 IV：知識としてわかる III：演習で実施できる II：教員・指導看護師の指導のもとで実施できる I：単独で実施できる ＞

卒業時		新人研修終了時（注：新人研修終了時の到達度は仮に設定したもの）	
1 環境調整技術	1 患者にとって快適な病室環境をつくることができる		I
	2 基本的なベッドメイキングができる		I
	3 臥床患者のリネン交換ができる	II	I
2 食事の援助技術	1 患者の状態に合わせて食事介助ができる（嚥下障害のある患者を除く）		I
	2 患者の食事摂取状況（食行動、摂取方法、摂取量）をアセスメントできる		I
	3 患者の栄養状態をアセスメントできる		I
	4 経管栄養法を受けている患者の観察ができる	II	I
	7 患者に対して、経鼻チューブからの流動食の注入ができる	II	I
	8 モデル人形での経鼻チューブの挿入・確認ができる	II	I
	6 患者の個別性を反映した食生活の改善を計画できる	III	I
	5 患者の疾患に応じた食事内容を指導できる	IV	II
	10 患者の生活上の改善点が見つかる	IV	II
	3 排泄援助技術	1 自然な排便を促すための援助ができる	
2 自然な排尿を促すための援助ができる		I	
3 患者に合わせた便器・尿器を選択し、排泄援助ができる		I	
5 ポータルトイレでの患者の排泄援助ができる		I	
6 患者のおむつ交換ができる	II	I	
7 失禁をしている患者のケアができる	II	I	
11 失禁をしている患者の皮膚粘膜の保護ができる	II	I	
4 膀胱留置カテーテルを挿入している患者の観察ができる	II	I	
8 膀胱留置カテーテルを挿入している患者のカテーテル固定、カテーテル管理、感染予防の管理ができる	III	I	
9 モデル人形に導尿または膀胱留置カテーテルの挿入ができる	III	I	
10 モデル人形にグリセリン浣腸ができる	IV	I	
12 基本的な排便の方法、実施上の留意点が見つかる	IV	I	
13 ストーマを造設した患者の一般的な生活上の留意点が見つかる	IV	I	
4 活動・休息援助技術	2 患者の歩行・移動介助ができる		I
	1 患者を車椅子で移送できる		I
	7 患者の機能に合わせてベッドから車椅子への移乗ができる		I
	11 患者をベッドからストレッチャーへ移乗できる		I
	12 患者のストレッチャー移送ができる		I
	9 目的に応じた安静保持の援助ができる	II	I
	6 臥床患者の体位変換ができる	II	I
	10 体位制限による苦痛を緩和できる	II	I
	13 関節可動域訓練ができる	II	I
	3 廃用症候群のリスクをアセスメントできる	II	I
	8 廃用症候群予防のための自動・他動運動ができる	II	I
	14 廃用症候群予防のための呼吸機能を高める援助が見つかる	II	I
	4 入眠・睡眠を促進した日中の活動の援助ができる	II	I
5 患者の睡眠状態をアセスメントし、基本的な入眠を促す援助を計画できる	IV	II	
5 清潔・衣生活援助技術	6 患者が身だしなみを整えるための援助ができる		I
	9 陰部の清潔保持の援助ができる		I
	2 患者の状態に合わせて足浴・手浴ができる		I
	1 入浴が生体に及ぼす影響を理解し、入浴前・中・後の観察ができる		I
	8 入浴の介助ができる		I
	10 臥床患者の清拭ができる		I
	3 清拭援助を通して、患者の観察ができる		I
	11 臥床患者の洗髪ができる	II	I
	4 洗髪援助を通して、患者の観察ができる	II	I
	13 患者の病態・機能に合わせて口腔ケアを計画できる	II	I
	12 意識障害のない患者の口腔ケアができる	II	I
	5 口腔ケアを通して、患者の観察ができる	II	I
	7 持続静脈内点滴注射を実施していない臥床患者の寝衣交換ができる	II	I
	14 持続静脈内点滴注射実施中の患者の寝衣交換ができる	II	I
	15 沐浴が実施できる	II	I
6 呼吸・循環を整える技術	12 酸素の危険性を認識し、安全管理の必要性が見つかる		I
	10 酸素ボンベの操作ができる		I
	1 酸素吸入療法を受けている患者の観察ができる		I
	5 酸素吸入療法が実施できる		I
	6 気道加湿ができる	II	I
	9 モデル人形あるいは学生間で体位ドレーンを実施できる	II	I
	11 気管内吸引時の観察点が見つかる	III	I
	7 モデル人形で、口腔内・鼻腔内吸引が実施できる	III	I
	8 モデル人形で、気管内吸引ができる	III	I
	13 人工呼吸器装着中の患者の観察点が見つかる	III	I
	15 循環機能のアセスメントの視点が見つかる	IV	II
	3 患者の自覚症状に配慮しながら体温調節の援助ができる	IV	II
	2 患者の状態に合わせて温熱法・冷熱法が実施できる	IV	II
	4 末梢循環を促進するための部分浴・薬法・マッサージができる	IV	II
14 低圧胸腔内持続吸引中の患者の観察点が見つかる	IV	II	
7 創傷管理技術	1 患者の褥瘡発生の危険性をアセスメントできる		I
	2 褥瘡予防のためのケアが計画できる	II	II
	3 褥瘡予防のためのケアが実施できる	II	II
	4 患者の創傷の観察ができる	II	II
	6 創傷処置のための無菌操作ができる（ドレーン類の挿入部の処置も含む）	III	II
	7 創傷処置に用いられる代表的な消毒薬の特徴が見つかる	III	II
	5 学生間で基本的な包帯法が実施できる	IV	II
8 与薬の技術	11 経口薬の種類と服用方法が見つかる		I
	1 経口薬（パルカ錠・内服薬・舌下錠）の服薬後の観察ができる		I
	12 経皮・外用薬の与薬方法が見つかる		I
	2 経皮・外用薬の与薬前後の観察ができる		I
	3 創傷内与薬の与薬前後の観察ができる	III	I
	5 モデル人形に創傷内与薬が実施できる	III	I
	14 皮下注射後の観察点が見つかる	III	I
	15 皮下注射後の観察点が見つかる	III	I
	16 筋肉内注射後の観察点が見つかる	III	I
	7 モデル人形または学生間で皮下注射が実施できる	III	I
	8 モデル人形または学生間で筋肉内注射が実施できる	IV	I
	18 薬理作用をふまえた静脈内注射の危険性が見つかる	IV	I
	17 静脈内注射の実施方法が見つかる	IV	I
	19 静脈内注射実施中の異常な状態が見つかる	IV	I
	6 点滴静脈内注射の輸液の管理ができる	IV	I
	4 点滴静脈内注射を行っている患者の観察点が見つかる	IV	I
	9 モデル人形に点滴静脈内注射が実施できる	IV	I
	10 輸液ポンプの基本的な操作ができる	IV	I
	20 抗生物質を投与されている患者の観察点が見つかる	IV	I
	13 中心静脈内栄養をうけている患者の観察点が見つかる	IV	I
	21 インシュリン製剤の種類に応じた投与方法が見つかる	IV	I
	22 インシュリン製剤を投与されている患者の観察点が見つかる	IV	I
	23 麻薬を投与されている患者の観察点が見つかる	IV	I
	24 薬剤等の管理（毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤を含む）方法が見つかる	IV	I
25 輸血が生体に及ぼす影響をふまえて、輸血前・中・後の観察点が見つかる	IV	I	
9 救命救急処置技術	1 緊急なことが生じた場合にはチームメンバーへの応援要請ができる		I
	7 意識レベルの把握方法が見つかる	II	I
	2 患者の意識状態を観察できる	III	I
	3 モデル人形で気道確保が正しくできる	III	I
	4 モデル人形で人工呼吸が正しく実施できる	III	I
	5 モデル人形で閉鎖式心マッサージが正しく実施できる	III	I
	6 除細動の原理がわかりモデル人形にAEDを用いて正しく実施できる	IV	I
	8 止血法の原理が見つかる	IV	II
10 症状・生体機能管理技術	3 患者の一般状態の変化に気づくことができる		I
	1 バイタルサインが正確に測定できる		I
	5 バイタルサイン・身体測定データ・症状などから患者の状態をアセスメントできる		I
	4 体系的な症状の観察ができる	II	I
	2 正確な身体計測ができる	II	I
	8 正確な検査が行えるための患者の準備ができる	II	I
	9 検査の介助ができる	II	I
	10 検査後の安静保持の援助ができる	II	I
	11 検査前、中、後の観察ができる	II	I
	6 目的に合わせた採尿の方法を理解し、尿検体の正しい取り扱いができる	II	I
	7 尿糖測定ができる	II	I
	14 身体保護を伴う検査の目的・方法、検査が生体に及ぼす影響が見つかる	III	I
	13 血液検査の目的を理解し、目的に合わせた血液検体の取り扱いが見つかる	IV	II
	12 モデル人形または学生間で静脈血採取が実施できる	IV	II
11 感染予防技術	1 スタンダード・プリコーション（標準予防策）に基づき手洗いが実施できる		I
	2 必要な防護用具（手袋、ゴーグル、ガウン等）の装着ができる	II	I
	3 使用した器具の感染防止の取り扱いができる	II	I
	4 感染性廃棄物の取り扱いができる	II	I
	5 無菌操作が確実に行える	II	I
	6 針刺し事故防止の対策が実施できる	II	I
7 針刺し事故後の感染防止の方法が見つかる	IV	I	
12 安全管理技術	1 インシデント・アクシデントが発生した場合には、速やかに報告できる		I
	2 災害が発生した場合には、指示に従って行動がとれる		I
	3 患者を認識しないための防止策を実施できる		I
	4 患者の機能や行動特性に合わせて搬送環境を安全に整えることができる	II	I
	5 患者の機能や行動特性に合わせて転倒・転落・外傷予防ができる	II	I
	6 放射線曝露の防止のための行動がとれる	II	I
	7 誤薬防止の手順にそって与薬ができる	II	I
	8 人体へのリスクの大きい薬剤の経路の危険性および予防策が見つかる	IV	I
13 安楽確保技術	1 患者の状態に合わせて安楽に体位を保持することができる		I
	2 患者の安楽を促進するためのケアができる		I
	3 リラクゼーション		I
	4 精神的安楽を保つための看護ケア		I